

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## タマネギベと病の防除対策の徹底について

早生・中晩生タマネギにおいて、現在、べと病の一次感染株（越年罹病株）の発生が急増しています。ついては、下記を参考に、一次感染株の速やかな抜き取りと、継続的な薬剤の予防散布の徹底について、生産者への指導をお願いします。

記

### 1. 発生概況

(1)3月3、4日に実施したマルチ栽培（10圃場）の定期調査では、べと病の一次感染株の平均発生株率は0.37%、発生圃場率は70%であり、前回調査（2月14～16日）から急増した（図1）。

(2)また、同日に実施した露地栽培（10圃場）の定期調査では、平均発生株率は0.37%、発生圃場率は70%であり、多くの圃場で発生を初確認した（図2）。

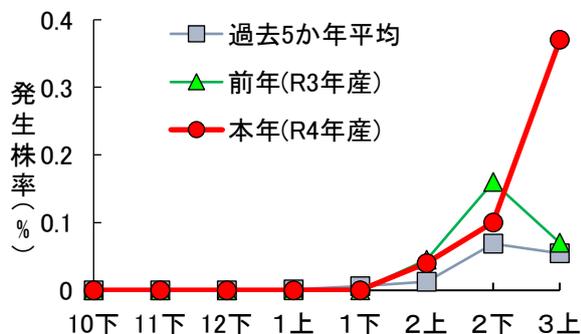


図1 マルチ栽培タマネギでの一次感染株の発生推移

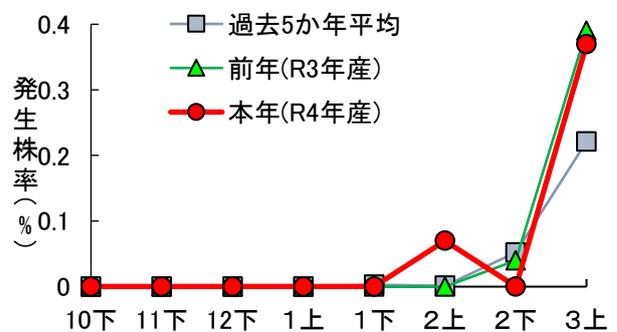


図2 露地栽培タマネギでの一次感染株の発生推移



写真 定期調査圃場におけるべと病一次感染株の発生（令和4年3月3日撮影）

## 2. 気象に基づく今後の発生予測

(1)福岡管区気象台が3月3日に発表した九州北部地方の1か月予報では、天気は周期的に変化すると予想されている。このため、曇雨天等の感染に好適な条件が出現した場合は、本病菌による感染が助長されると予想される。

## 3. 防除対策

### (1)一次感染株の抜き取り徹底

一次感染株は周囲への伝染源となるため、**圃場の見回り**をこまめに行い、発生を認めた場合には**直ちに抜き取る**。抜き取った株は圃場に放置せず適切に処分する。

### (2)薬剤防除による二次伝染の予防

最新の気象予報や図3を参考に、薬剤による**予防散布を徹底**する。

防除対策の詳細については、佐賀県病害虫防除のてびき 麦類・野菜・花き・飼料作物 を参照する（p261～264）。

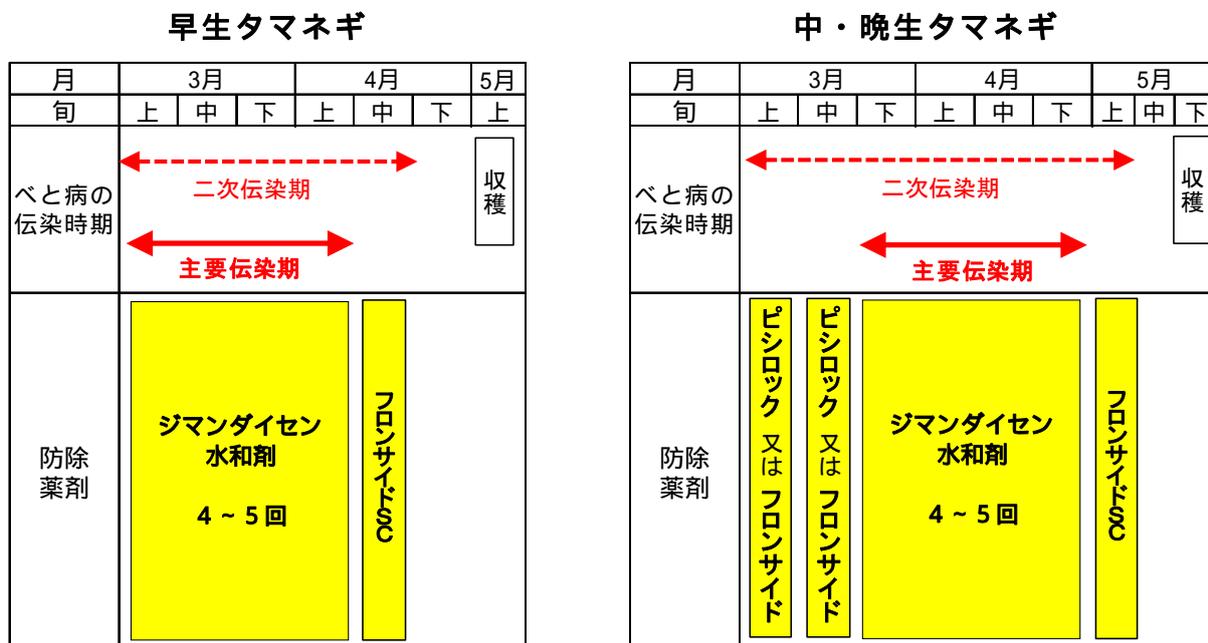


図3 タマネギべと病の伝染時期と薬剤防除体系(例)

### 【ジマンダイセン水和剤散布にあたっての留意事項（各作型共通）】

- (1)10日間隔での4～5回散布を基本とするが、前回散布の7日後以降に曇雨天が予想される場合は、前倒しで散布を行うなどして、**雨前の散布を徹底**する。ただし、防除効果を安定させるため、散布から降雨までの時間を、少なくとも24時間は確保する。
- (2)本剤には、展着剤として、ミックスパワー、まくぴか、ニーズ、ササラのいずれかを加用する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5085

Mail [nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp](mailto:nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp)

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

